

そのすけじろう

園助次郎や枕崎の鮫島喜成の両名が移住してからは、海潟の生簀漁業は  
いっそう規模拡大を遂げました。そして、大正時代に入ると、遠洋カツ  
オ漁業に製氷の利用法や無線電信の技術が導入されるとともに、八田網  
漁業も急速に発展しました。

この頃、漁業振興に力を尽くした先人には岩元浅吉、宮城権太郎、和  
田源市らの名前が挙げられます。太平洋戦争の激しくなる前まで海潟は  
空前の活況を呈し、カタクチイワシを買い付けたカツオ漁船の乗組員た  
ちは海潟温泉街に繰り出し、海潟の町は大変活気に満ちていました。

戦前戦後にかけて漁業者の組織づくりが進められていましたが、漁業  
近代化に尽力したのが深見休作ふかみきゆうさくです。昭和24年（1949）2月1日  
垂水漁業協同組合が発足し、初代組合長に就任しました。

真珠養殖や煮干加工業、のり養殖も試みられたこともありますが、カ  
タクチイワシの漁獲高が次第に減退したため、  
取る漁業から育てる漁業へ、昭和37年（1963）にはハマチ養殖事業への転換が始まり、  
40年代にはいつてからは海潟のハマチ養殖漁  
業は黄金時代を迎えるのです。



カンパチ餌やり体験

その後、養殖事業はハマチからカンパチへと  
移行し、現在では垂水市漁協はカンパチの生産量では単一漁協として  
日本一を誇っています。

平成16年（2004）7月、カンパチ”海の桜勘”は、鹿児島島の魚  
ブランドとして認定を受けました。また平成21年（2009）に始ま  
った、カンパチ祭りは年を追うごとに盛んとなり、  
県内外から多くの人々が海潟を訪れています。

さらに最近では修学旅行の民泊と組み合わせたカンパチの餌やり体験事業も行われ、漁業を  
通して海と人との関わりを学ぶ体験事業が展開  
されています。また、平成14年（2001）



には、高倉健主演の映画「ホテル」が海潟漁港を舞台にクランクインし、  
地元の方々もエキストラとして協力し、話題を呼びました。